

「ノーマライゼーションについて」

○発表者名	小竹の郷（就労継続支援 B 型・生活介護）		
共同研究者名	副施設長	前畑	充栄
	主任	森山	哲生
	支援員	板持	克朋
	支援員	米山	功一

1. 問題提起

小竹作業所は、就労継続型支援 B 型と生活介護の多機能型作業所で、利用人数 25 名・そのうち重度障害者 6 名、年齢も幅広く多様な障害特性を持った利用者の方たちが通所されています。

重度障害者の問題行動として、騒音での興奮、多動性・衝動性が強く集団行動が難しい、対人関係による他害行動など色々と取り上げられる中、当事業所でも日々多様な問題行動・他害行動が起こり、支援の難しさを痛感しながら、原因を追究し改善に努めています。

今回のテーマ、ノーマライゼーションについて『みなが平等に普通の暮らしを送る権利』とは何かと考えた時、作業所内だけで完結するのではなく、障害あっても「一人ひとりが主役になる」色々な経験を通して、楽しみを見出し地域との共存・社会参加を目指していくにはどうしたら良いのかと考察するきっかけになった為、問題提起として取り上げました。

2. 目的

作業所内でも、相性が合わないことで同室での作業出来ない方が何人もおられる中で、限られた空間で、試行錯誤しながら作業提供・場所の配置を考え問題行動へと発展しないよう取り組んでいます。

作業時間ではトラブル多い現状で、土曜開所（レクリエーション）では日頃のストレスを発散するかのようになっています。

娯楽を皆と共有する事で、日々の蟠りを軽減しつつ協調性を養い、よりご本人の心身が自然体で楽しめる行事が提供できるようノーマライゼーションに沿った個人の尊厳・自己決定権・ノーマルなライフスタイルを実践することを目的としています。

3. 方法

- ◎年間のレクリエーション計画する際、季節感を感じてもらえるよう四季折々の行事を取り入れる。
- ◎障害特性を踏まえたうえで、利用者のペースに合わせ、出来ないであろうと決めつけずに、小さな成功を積み重ね次につなげていく。
- ◎利用者自身から「やってみたい！」意欲を引き出せるよう、雰囲気作りを重要視して取り組む。
- ◎日頃トラブルあって不仲な関係性の利用者とも、イベントではトラブルにならない傾向にある為、経過を見極めながら無理のない範囲で距離を縮めるよう支援する。
- ◎失敗を恐れず、色々な場所・体験を通して経験を積み社会性を養ってもらう。
- ◎騒音が苦手な方には、他イベントの選択肢も取り入れ、尊厳と自己決定権を大事にする。

【年間の行事・イベント】

季節の行事：春の運動会・夏祭り・秋祭り・クリスマス会・新年会

楽しみに繋がるイベント：運動（チャックス）・誕生会レク・土曜開所レク

4. 成果・考察

【成果】

- ◎希望に沿ったレクを取り入れる事で、出席率が上がる。
- ◎活躍できる場を提供する事で、自信・意欲に繋がり、社会とつながる準備・社会に参加する次のステップへとつながった。
- ◎以前は集団行動が困難だった方も、チーム一丸となって目標に取り組むことでチームワークが養われ、陰悪だった対人関係も徐々に和らいできた。
- ◎楽しみが増える事で、日々の作業への活力となり、行動範囲も広がり体力向上につながった。

【考察】

- ◎今年度は、利用者の楽しめる行事・レクを中心として取り組んできたが、今後は更に多様な分野に幅を広げ、作業面・行事ごとに力を注いでいきたい。
- ◎今後も、作業所での訓練を経て安全を確認してから、無理なくイベント参加・地域社会へ移行できるよう進めていく。
- ◎ノーマルな日常生活がより豊かなものになるよう、今後も利用者の要望に寄り添い、努力を続けていきます。